

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成15年度病害虫発生予察特殊報第5号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第5号

- 1 対象作物 トルコギキョウ
- 2 病害虫名 トルコギキョウえそ輪紋病（仮称）
- 3 発生地域 県北部
- 4 発生面積 10a
- 5 特殊報の内容

（1）発生経過

平成15年6月中旬に県北部の地域農業改良普及センターから、トルコギキョウのウイルス検定依頼があった。当病害虫防除所においてELISAで診断したがウイルス反応が出なかったため、九州沖縄農業研究センター病害遺伝子制御研究室に検定を依頼した結果、*Iris yellow spot tospovirus* (IYSV)によるトルコギキョウえそ輪紋病（仮称）であることが判明した。本ウイルスによる病害の発生は本県では初めてである。

現地で青色粘着トラップを設置し、アザミウマ類を誘殺したところ、IYSVを媒介するネギアザミウマが確認された。

IYSVによる病害は、日本では平成8年に千葉県のアルストロメリア、平成13年に佐賀県のトルコギキョウ、平成14年には大分県のトルコギキョウでそれぞれ確認されている。

（2）主要な病徴

発生品種は「北斗星」で、確認された病徴は葉の斑点と茎枯れ、矮化であった。

他県では別の品種で以下の病徴が報告されている。

上位葉の黄化、黄化を伴ったえそ斑点、茎に縦筋状のえそ症状。

下葉には大型のえそ病斑やえそ斑紋症状を生じ、株の半身に発症するため、えそを生じた側に傾く傾向がある。

葉に大型の斑紋を形成し、発病が激しい株は全葉が枯死したり茎まで枯れるものがある。

花は萎縮や花弁のモザイク症状・えそ斑点を生じるが、葉での発症より

も頻度は低い。

(3) 発生生態

I Y S V はネギアザミウマによって媒介されるが、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマでは媒介されない。

その他の害虫による媒介、土壌伝染、種子伝染、管理作業による汁液伝染の有無、その他発生生態の多くは不明である。

(4) 寄主植物

I Y S V が感染する可能性がある植物

アルストロメリア科：アルストロメリア

ヒガンバナ科：アマリリス、クリビア（クンシラン）

ユリ科：タマネギ、リーキ、ブルビネ（バルビネ）

リンドウ科：トルコギキョウ

アヤメ科：ダッチアイリス

ヒユ科：センニチコウ

5 防除上注意すべき事項

- (1) 本病が疑われる株は、見つけ次第直ちに抜き取り、放置せずに処分する。
- (2) 雑草はアザミウマ類やウイルスの発生源となる可能性があるため、ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- (3) 施設開口部に防虫ネットや寒冷紗等を張り、施設内へのアザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (4) 栽培終了後施設を蒸し込む等、施設内のアザミウマ類を死滅させる。
- (5) 本県での発生地域は限られているが、今後、拡大する可能性があり、各地域でも発生に注意する。

「北斗星」での病徴（葉の斑点）

